

シンポジウム主旨説明

水 谷 智

2017年7月16日に、同志社大学において開催された公開シンポジウム「〈はざま〉から再考する帝国史」は、2年前に刊行されていた駒込武氏（京都大学）による『世界史のなかの台湾植民地支配—台南長老教中学校からの視座』（岩波書店、2015年）を足がかりとしながら、帝国史研究の新たな可能性を探ることを目的として企画された。台湾のキリスト教系学校である台南長老教中学校を、日本とイギリスの二つの帝国の〈はざま〉に位置づけて論じる駒込氏の研究をさまざまな角度から共同討議することで、複数の帝国をまたがった「間-帝国」（trans-imperial）な領域において支配と被支配の関係性を問うのである。

この研究会を発案した水谷智（同志社大学人文科学研究所・第19期第12部門研究代表）は、駒込氏の新著について論じるべく2016年3月に東京外国語大学で開催された「書評コロキウム」にコメンテーターとして参加していた。会は盛況で、活発な議論が交わされたが、水谷の力量不足もあり、日本帝国のイギリス帝国との関係については議論が発展しなかった。しかし、イギリス帝国を論じる部分は、駒込の著書の趣旨を十分に理解する上で極めて重要ではないか、また、それはイギリス帝国史研究に重要な問題提起をしているのではという考えは、コロキウム後にむしろ強くなっていった¹⁾。そこで2016年度に入って、同じイギリス帝国史研究者で、部門研究のメンバーでもあった森本真美（神戸女子大学）、並河葉子（神戸市外国語大学）の両氏と相談し、イギリス帝国史研究者と駒込氏の学術的対話の場を設けることを検討し始めた。これが公開シンポジウムに向けた最初の一步であった。

ちょうどその頃、水谷・森本・並河は、イギリスの帝国理念や、この理念を反映した制度および社会事業が、いかに帝国としての境界を超えて外部に伝搬され、特に日本帝国においてどのような影響を与えたかに注目する科学研究費の共同研究²⁾に従事してい

た。「越境する帝国」という異帝国間伝搬のメカニズムを、日本・イギリス双方の史料をもとに精査な検証によって解明することがこの共同研究の目的であったが、1年前に刊行されていた駒込の著者が、それを考察するにあたって極めて示唆的であることは明白であった。イギリスの長老教会関係の英語による一次資料を読み込みつつ、台湾という日英帝国の〈はざま〉の空間をめぐる展開される駒込の帝国論は、「間-帝国」的な視点から帝国史を再考するうえで極めて重要なモデルを提示していると思われたのである。そして、この「間-帝国」的な視点は、人文科学研究所・第12部門研究のメンバーが過去10年にわたって取り組んできたテーマでもあった。

駒込氏とも相談しながらシンポジウムを企画するプロセスにおいて、水谷・森本・並河以外にも日英の両帝国を視野に歴史研究を行ってきたイギリス帝国史研究者をゲストコメンテーターとして招聘する方向性が定まった。イギリス帝国史研究者として早くから日本帝国とイギリス帝国の関係に着目し、著書に『イギリス帝国と帝国主義—比較と関係の視座』（有志舎、2008年）がある木畑洋一氏（東京大学名誉教授）を招聘することは自然の成り行きであった。また、木畑氏の指導の下でイギリス帝国における優生学についての博士論文を書いて博士号（東京大学）を取得し、現在は韓国で研究活動を行っている廉雲玉氏（高麗大学）にも参加していただくことになった。韓国人研究者として日本帝国に関心を持ちつつ、イギリス帝国について精力的に研究活動をしている氏の「間-帝国」的視点に期待してのことであった。一方、イギリス帝国史研究者にとっては、日本およびその植民地における西欧近代的な社会事業の受容の歴史的詳細を明らかにすることは容易ではない。そこで、人文科学研究所で東アジアにおけるキリスト教宣教師の活動に関する共同研究に従事し、現在は駒込氏の同僚でもある田中智子氏（京都大学）もゲストコメンテーターとして招聘することが決まった。

以上がシンポジウムの主旨と企画の経緯である。当日の内容および主催・共催については以下の資料（ポスター）を参照されたい。

注

- 1) 詳しくは以下を参照：水谷智、「駒込史学が広げる間帝國的な視座の可能性」、『クアドランテ』（東京外国語大学海外事情研究所），no.19（2017），pp.77-82.
- 2) JSPS 科研費 JP15K02966。

SYMPOSIUM

'Rethinking Imperial Histories from the Realm of In-between'

シンポジウム

〈はざま〉から再考する帝国史

2017年
日時 **7月16日(日)**
13:00 ~ 17:00

会場 同志社大学烏丸キャンパス志高館SK118

一昨年に刊行された駒込武『世界史のなかの台湾植民地支配—台南長老教中学校からの視座』（岩波書店、2015年）を足がかりとしながら、帝国史研究の新たな可能性を探ることを目的とする。台湾のキリスト教系学校である台南長老教中学校を、日本とイギリスの二つの帝国の〈はざま〉に位置づけて論じる駒込の研究をさまざまな角度から共同討議することで、複数の帝国をまたがった「間帝国」（trans-imperial）な領域において支配と被支配の関係性を問うていく。



主催：科学研究費・基礎研究C「イギリス帝国と近代日本—帝国的諸事業・思想の越境的伝搬と展開」（代表：吉村真美[森本真美]）

共催：科学研究費・基礎研究B「同帝国的関係性からみた植民地支配と抵抗—比較・協力・並存・移動の史的構造」（代表：水谷智）

同志社大学人文科学研究所第19期第3研究「東アジアキリスト教伝道史基礎アーカイブスの研究」（代表：原誠）

同志社大学人文科学研究所部門研究・第19期第12研究「脱植民地化と植民地主義の現在」（代表：水谷智）

SYMPOSIUM

シンポジウム

'Rethinking Imperial Histories from the Realm of In-between'

〈はざま〉から再考する帝国史

プログラム

開会の辞	13:00-13:05	森本真美 (神戸女子大学)
趣旨説明	13:05-13:15	水谷智 (同志社大学)
報告	13:15-13:35	水谷智 「英領インド史研究および『間帝国』研究の視点から」
	13:35-13:55	並河葉子 (神戸市外国語大学) 「イギリス宣教師研究の視点から」
	13:55-14:15	森本真美 「イギリス子ども・青少年期研究の視点から」
応答	14:15-15:30	駒込武 (京都大学)
休憩	15:30-15:45	
ディスカッション	15:45-17:00	ディスカッサント 木畑洋一/廉雲玉/田中智子
	16:30-17:00は フロアに開放。	

報告者

駒込武

Takeshi Komagome

京都大学大学院教育学研究科教授、台湾近現代史/教育史
『世界史のなかの台湾植民地支配—台南長老教中学校からの視座』(岩波書店、2015年)

森本(吉村)真美

Mami Morimoto-Yoshimura

神戸女子大学文学部教授、イギリス近代史・社会史/子ども期・子ども文化研究
『世紀転換期イギリスの少年雑誌にみる「日本」』
『ハルシオン—世界子ども学研究会紀要』第6号(2016年3月)

水谷智

Satoshi Mizutani

同志社大学グローバル地域文化学部教授、植民地研究/イギリス帝国史
'Anti-Colonialism and the Contested Politics of Comparison: Rabindranath Tagore, Rash Behari Bose and Japanese colonialism in Korea in the inter-war period',
Journal of Colonialism and Colonial History, vol.16, no.1 [2015]

並河葉子

Yoko Namikawa

神戸市外国語大学外国語学部教授、イギリス帝国史、ミッション史
『イギリス帝国と女性宣教師—19世紀後半における女子教育と学校—』、
駒込武・橋本伸也編著『帝国と学校』(昭和堂、2007年)

木畑洋一

Yoichi Kibata

東京大学・成城大学名誉教授、国際関係史 / イギリス帝国史
『イギリス帝国と帝国主義—比較と関係の視座』(有志舎、2008年)

廉雲玉

Woonak Yeom

高麗大学民族文化研究院研究教授、イギリス史
'Colonial Violence and Compensation: The Case of Mau Mau',
The Korean Journal of British Studies, vol.34 [2015] [in Korean]

田中智子

Tomoko Tanaka

京都大学大学院教育学研究科准教授、日本近現代史/高等教育史
『駐日医療伝教士約翰別麗的「麻風病」観』(中国社会科学出版社『医療社会史研究』第三輯、2017年)